

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人広島大学

## 1 全体評価

広島大学は、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、伝統と実績を活かした教養教育及び世界トップレベルの研究に裏打ちされた専門教育を根幹に「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」を持続的に輩出し、「100年後にも世界で光り輝く大学」となることを目指している。第3期中期目標期間においては、世界大学ランキングトップ100に入る総合研究大学になるべく、国際水準の教育研究の展開に向けて、「広島大学改革構想」の着実な実行により、「大学改革」と「国際化」を大胆に推進し、世界に通用するリーダーを育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際研究ネットワークの拡充を図るとともに、学外者の意見を取り入れた組織評価を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 留学プログラム参加学生の成果を客観的に測定するため、北米を中心に約60の高等教育機関で広く利用されているBEVIテストについて、当該テスト開発者と協働で日本語版（BEVI-j）を開発している。平成29年度は、大学教育との接続を重視して、高校における留学・語学・異文化学習プログラムの長期的な効果測定（高校在学中と大学入学後に測定）を可能とするため、高校生を対象としたBEVI-jテストを開発し、提供可能としている。（ユニット「世界大学ランキングトップ100を目指す取組」に関する取組）
- 海外経験の少ない学部1年次生を対象とし、参加費用の一部を大学が支援する短期派遣「STARTプログラム」に加え、平成29年度から英語力強化を重視した学部2・3年次生対象のステップアップ版「START+（スタートプラス）プログラム」を新設している。（11コース271人、8か国に派遣、短期交換留学制度「HUSAプログラム」応募者中START又はSTART+参加学生の割合37%）（ユニット「世界大学ランキングトップ100を目指す取組」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

#### ○ 全学的観点による部局組織評価の実施

部局の特徴・特色を伸ばすとともに、課題への対策と改善を実施することによって教育研究等の一層の質の向上を図ることを目的として、経営協議会学外委員、広島県内の私立大学長、民間企業社長の学外者を含む部局組織評価を実施している。評価に当たっては、学内の他部局の優れた取組を共有することも目的として、部局を分野等によりグルーピングし、グループごとに評価者による部局長ヒアリングを行っており、評価結果（特徴・特色を伸ばすための助言及び課題改善のための指摘：117件）を踏まえ、各部局は改善方法等についてプランを立て、実行している。

#### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

##### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 国際研究ネットワークの拡充

海外大学等との包括協定締結に積極的に取り組み、平成29年度は大学間協定を66件(累計310件)、部局間協定を29件(累計411件)新たに締結し、国際共同研究や国際共著論文の増加につなげるための国際研究ネットワークの拡充を図っている。

### ○ 外国語による授業科目数の増加

教育の国際標準化を推進するため、学士課程及び大学院課程の全授業科目のうち、外国語による授業科目数を30%程度に増加することを第3期中期目標期間中の目標として掲げており、その過程として、平成29年度は20%程度に増加させる計画としていたが、英語を用いた授業科目のみで修了できるコースの早期設置や、教員採用に当たっての国際公募の実施(選考時に英語による模擬授業を実施)による効果もあり、平成29年度の外国語による授業科目数は学部・研究科全体で年度計画の目標を上回る25.9%に達している。

## 共同利用・共同研究拠点

### ○ ふくしま県民公開大学の開催

原爆放射線医科学研究所では、「復興からイノベーションへ～皆で考えよう、福島未来～」をテーマに、ふくしま県民公開大学を平成30年1月に福島市で開催し、前年度の4倍以上となる市民ら約700人が参加している。震災後取り組んできた復興活動をさらに国内外で幅広く見本として通用するものにし、明るい未来作りへ活かすため、次に考え行うことは何かについて、中学生・高校生・大学生と各界のトップリーダーが、議論を繰り広げている。

## 附属病院関係

(教育・研究面)

### ○ グローバルな放射線治療を提供できる人材の育成

世界最高水準の放射線治療を提供できるグローバル人材(放射線治療チーム)の育成及びその人材を地域やアジア近隣諸国に展開するプログラムを構築し、国内外の先進放射線治療施設への訪問調査・情報収集、チームビルディング研修会を実施するなど、多職種連携に重点を置いた質の高い医療人養成に取り組んでいる。

(診療面)

### ○ リンパ浮腫センター設置による集学的な治療の提供

リンパ浮腫患者への集学的治療を実践し、患者の適切な診断及び病態の軽減を図るため、国内初の国際リンパ浮腫治療センターを設置し、特任教授及び助教を配置するなど、診療体制の整備を図っている。

(運営面)

○ 全国に原子力災害医療のエキスパートを派遣

国から指定を受けている高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターとして、原子力災害防災訓練等に医師、看護師、診療放射線技師等を講師として8府県に延32名を派遣・指導助言を行った他、講師13名による全国専門研修の開催、4府県12医療機関に対し延べ123名を派遣・研修会や除染訓練を実施するなど、原子力災害における中核医療機関として人材育成の強化に取り組んでいる。

○ 女性医師のキャリア継続支援

女性医師にとって働き甲斐があり効率のよい職場環境の整備を支援し、働き続けられる職場、離職後復帰しやすい職場を構築するため、女性医師支援センターを設置し、女性医師のキャリア継続支援を実施している。